

[自主研究]

# 埼玉県における野生動植物の分布情報の収集・解析と 保全管理策の検討

角田裕志 安野翔 三輪誠 米倉哲志 王効拳

## 1 目的

埼玉県では、侵略的外来生物の侵入や鳥獣の増加が、県内の生物多様性や生態系に影響を及ぼしつつある。県には、できる限りこれらの影響を抑制することが求められている。また、県内には絶滅危惧動植物種が多数存在しており、これらを保全することも、県の重要な施策のひとつとなっている。

本研究では、県内の生物多様性に関する基本情報の現況把握と現行の対応策の評価等を通じて、野生動植物種の高い効果の高い保全策の提案を目的とする。具体的には、県内において侵略性の著しい外来生物や個体数増加の著しい鳥獣類等について、分布状況等の情報を収集・解析するとともに、県内でのそれらの影響を最小限に抑制するための方法を提案する。また、絶滅危惧動植物種についても、県内での分布状況や減少要因に関する情報を収集・解析し、より良い保全方法を提案する。

本年度は県内に侵入生息する外来生物に関する研究を中心に報告する。

## 2 方法

### 2.1 特定外来生物の侵入・分布情報の把握

近年目撃情報が増加している特定外来生物のマスクラット (*Ondatra zibethicus*) の生息状況を明らかにするために、環境管理事務所や自治体に寄せられた目撃情報を整理して地理情報システム (GIS) による生息分布の概況をまとめた。また、目撃地点の周辺水域において現地調査を実施した。

### 2.2 特定外来生物による在来生物への影響把握

県内河川への侵入が確認されている特定外来生物コクチバス (*Micropterus dolomieu*) による在来生物への捕食影響を把握するために、川越市の小河川にて捕獲された個体の胃内容物分析を行った。

## 3 結果

### 3.1 特定外来生物の侵入・分布情報の把握

環境管理事務所、自治体、市民から寄せられたマスクラットと思われる情報を整理したところ、中川流域に位置する7市町の河川や水路を中心に、2011年～2020年までに計17件の目撃があった (図1)。目撃地点の最上流点と最下流点間の直線距離は約35kmであった。目撃地点は、中川とその支流河川の河川敷、住宅街を流れる小規模の三面張り護岸水路など多様な環境であった。なお、過去の目撃地点付近で現地調査を

実施したが、本年度は個体の直接観察はできなかった。



図1 県内自治体におけるマスクラットの目撃地点の分布 (目撃があった市町名のみ示した)

### 3.2 特定外来生物による在来生物への影響把握

2019年6～11月に捕獲されたコクチバス計22個体を分析に供した。供試個体の標準体長と体重の平均値 (範囲) はそれぞれ242.7 (60～355) mm、369.6 (5.1～1041) gであった。計12個体で胃内容物を確認し、魚類と甲殻類 (アメリカザリガニ) が大きな割合を占めた (図2)。また、夏に採捕された大型個体では精巣や卵巣の発達が見られ、産卵のために本流の間川などから侵入した可能性が考えられた。



図2 コクチバスに捕食されたアメリカザリガニの一例

## 4 今後の予定

マスクラットについては関係機関からの情報収集や現地調査を継続し、生息状況を把握する。コクチバスについては在来生物への捕食影響を把握するために個体採集を継続するとともに、水域ネットワークの移動を介した本種の生活史の解明に向けた分布調査等についても検討する。